

目次

1. aktaとは・2020年度の活動ミッション	2
2. community center akta	10
3. アウトリーチプログラム	23
4. ウェブサイトを用いた啓発	31
5. HIV検査普及プログラムと行政連携	41
6. Living Together	47
7. 調査・研究	52
8. 新型コロナウイルス感染症と新宿二丁目の対応	68
9. まとめ	76

1

特定非営利活動法人akta

「コミュニティの中から、 コミュニティに向けて」

aktaはアジア最大といわれる、ゲイバーや商業施設が連なる新宿2丁目を拠点にCommunity Based Organizationとして活動します。

私たちの活動は、全ての人がHIVとともに生きているという視点から、多様なセクシュアリティと性の健康の認知と理解をはかり、だれもが自分らしく暮らせる街づくりに寄与することを目的とします。

2

特定非営利活動法人akta

所在地

〒160-0022
東京都新宿区新宿二丁目15番13
号 第二中江ビル302号室

電話番号

03-6380-0833 (木曜～日曜 16時～22時)

FAX番号
03-6380-0575

代表者 理事長
岩橋恒太

設立
2011年4月1日

役職者

※2020年7月1日現在

理事（理事長）	岩橋恒太
理事	荒木順
理事	江島啓介
理事	柴田惠
理事	木南拓也
監事	市川誠一
監事	長谷川博史

3

2019年 日本のHIV/エイズの状況

新規に**1,236人**のHIV感染者・エイズ患者報告

新規陽性者のなかで、

67.2%(831人)

の人たちが
日本国籍の**男性同性間**
の性的接触で感染。

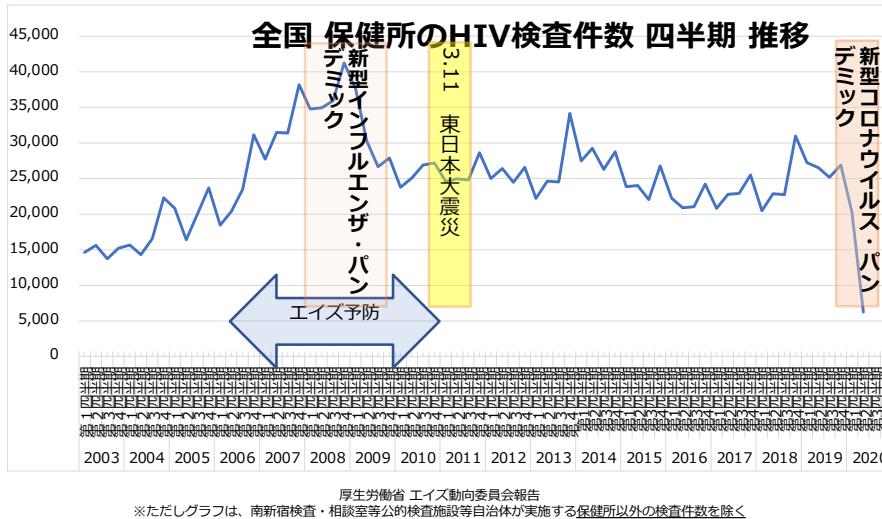
新規陽性者のなかで、

約33%(406人)

の人たちが
東京都から報告。

●東京都梅毒報告**1,712人** (内、男性が**424人**同性間性的接触 推定24.8%)

COVID-19のインパクトの中でのMSMへの検査普及の取り組み



5

2020年度 活動のミッション

- COVID-19の流行を受けセンターおよびプログラムの対応
- akta センター長交代に伴う体制づくり
- HIV関連機関とコミュニティの、男性同性間のエイズ対策における「ハブ」機能の継続
- HIV感染報告数が増加傾向にあるMSMの若年層対象の予防行動促進
- AIDS発症で感染がわかるケースの多い中高年層へのHIV検査普及
- HIVのリアリティを共有するプロジェクトの継続
- コミュニティセンターaktaを基点とした、男性同性間のエイズ対策の促進を目的としたアドボカシー

6

令和2年度の計画と実施

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、計画通りのプログラム実施ができなかった。
以下「実施できたもの」「できなかったもの」「新たに立ち上げたもの」に分類。

プロジェクト	実施できたもの	実施できなかつたもの	新たに立ち上げたもの
センター	<ul style="list-style-type: none"> 制限を設けての開館 展覧会、一部スペース貸出し センター周知パンフレットの作成 内部研修(相談対応) 	<ul style="list-style-type: none"> akta café 人を集めてのイベント企画 専門家相談会(年6回) スペースの貸し出し(一般) 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策 他団体との意見交換会 moyamoya相談会 LINE公式の開設(akta利用者用)
アウトリーチ	<ul style="list-style-type: none"> デリバリーポイント 発送作業 	<ul style="list-style-type: none"> アダルトデリバリー デリバリーキットの作成 人を集めての勉強会 ボランティア募集 	<ul style="list-style-type: none"> デリヘルHR オンライン勉強会 LINE公式の開設(アウトリーチ用)
予防・促進	・コンドーム制作	・予防のための資材(全4種)	・U=Uファクトシートの作成
検査・広報	<ul style="list-style-type: none"> aktaゆうそう検査 ・インタビュー集の作成 monthlyの発行 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言中の資材印刷(monthly4月～7月まで) 	<ul style="list-style-type: none"> クリニックとの連携
ウェブ	<ul style="list-style-type: none"> akta.jp aktaYouTubeチャンネル アーカイブ 	・YouTube大型企画	<ul style="list-style-type: none"> インスタグラム再スタート ウェブコンテンツ紹介ページの作成
研究・行政連携	・各研究協力、意見交換	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査 保健師研修会(埼玉) 検査広報(埼玉) 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> 各種ブース出展(パレード、NLGR、エイズ学会) 	<ul style="list-style-type: none"> エイズ学会パネル展示 新型コロナウイルス感染症プログラム

受託事業一覧

- 厚生労働省 同性愛者等向けコミュニティセンター事業(公益財団法人エイズ予防財団受託):community center akta
- 厚生労働省 同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業 HPによる検査相談体制等情報提供:HIVマップ
- 東京都福祉保健局(公益財団法人東京都結核予防会) 東京都エイズ啓発拠点事業 : HIV検査普及、トークイベント等、HIVのリアリティの共有プログラム
- 千葉県健康福祉部:HIV検査広報
- 港区みなと保健所:HIV検査広報
- 新型コロナウイルス感染症 : 拡大防止活動基金

寄付をいただいた団体・個人

株式会社Viivヘルスケア、団体、個人の方からもご寄付をいただきました。

8

普及啓発活動の状況

- 講師派遣
内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室、東京都iCDC、ぶれいす東京、グット・エイジング・エールズ、ギリアド・サイエンシズ株式会社、慶應義塾大学、東京大学、国立保健医療科学院、公益財団法人エイズ予防財団、東京大学、MDS株式会社、仙台医療研究センター、国立国際医療研究センター、コスマPR他。
- 外部委員会への参加
厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団「世界エイズデーキャンペーンテーマ検討会議」、東京都福祉保健局「世界エイズデーポスター審議会」、新宿区保健所「新宿区HIV/AIDS関係機関ネットワーク連絡会」、日本エイズ学会学会誌編集員、第34回日本エイズ学会学術集会プログラム委員

9

community center akta -HIV/AIDSの総合的な情報の集約と発信

10

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

コミュニティセンター akta

東京都新宿区新宿2-15-13第2中江ビル301

東京メトロ丸ノ内線・副都心線・都営新宿線 新宿3丁目駅から徒歩3分

開館時間：16:00 - 22:00(月・火・水曜,年末年始除く)

※新型コロナウイルス感染症の流行を受け、開館日時が流動的となった。

スタッフ：常勤3人、非常勤9人、ボランティア：125人



(2020年4月から2021年1月まで)

総来場者：1078人（前年度比19.7%）

初来場者：182人（前年度比11.7%）

稼働日：141日

相談件数：111件

(2003年9月から2021年1月まで)

累計来場者数：129,602人

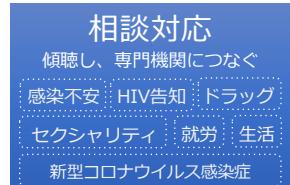
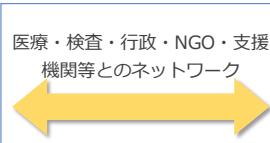
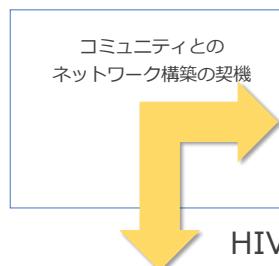
令和2年度「同性愛者等向けコミュニティセンターを活用した広報等一式事業（厚生労働省委託事業）」を公益財団法人エイズ予防財団が受託、新宿区新宿二丁目にあるセンターの運営をakta。

約300軒の商業施設が密集するアジア最大のゲイタウン“新宿2丁目”で
コミュニティの中からコミュニティに向けて普及啓発

11

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

コミュニティセンターの機能



12

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

開館するにあたっての新型コロナウイルス感染症対策

スタッフによる感染対策

- ・出勤前の検温と体温報告
- ・出勤のチーム分け
- ・マスクの常時着用
- ・手指のアルコール消毒
- ・定期的な館内消毒と換気
- ・緊急時対応のマニュアル作成とシミュレーション

利用者への感染対策

- ・入館前の体温確認
- ・検温と手指のアルコール消毒
- ・マスクの常時着用
- ・連絡先登録のお願い(任意)

他、館内のレイアウト等を変更し感染症対策に努めた。

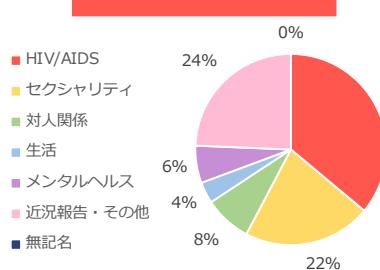


— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

相談対応

セクシュアリティに理解のあるスタッフが
オープンスペースで対応し、支援リソースへつなぐ。

相談内容の主訴（111件）



HIV/AIDSに関する相談の主訴(40件)

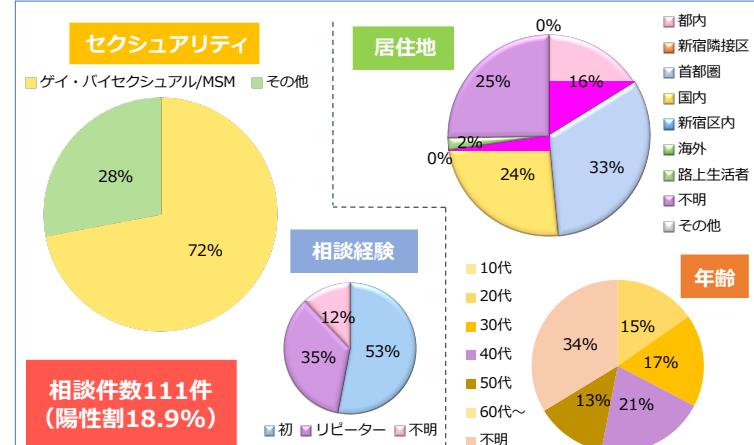


コミュニティセンターの活動状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来場者数	0	3	101	92	103	146	163	241	119	28	29	53	1078
新規来場者数	0 (0%)	0 (0%)	4 (4%)	12 (13%)	15 (15%)	29 (20%)	26 (16%)	55 (23%)	15 (13%)	2 (7%)	8 (7%)	6 (11%)	182 (17%)
相談件数	0	5	13	9	19	8	21	6	5	3	9	13	111

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

相談者の属性



新規利用者の獲得



●新型コロナウイルス感染症の流行を受け、来場者数は昨年度に比べ激減しているが、感染症対策を施し、展覧会等一部の利用を緩和することで、来場者獲得に努めた。またオンラインでの情報発信に力を入れ、akta.jpのユーザー数を大幅に増やした。**ユーザー数：198,520名（2020年4月～2021年1月末昨年度同時期と比較して、130.3%）**

他、Twitter(akta公式、あくたくん)、facebook、Instagram、akta YouTube CHANNEL、LINE公式アカウント(akta、デリヘル)で定期的に情報を発信した。



相談・情報提供

● 基本は常勤スタッフ（2名）が対応。臨時スタッフを含めて定期的に情報の整理と共有を実施。

● 件数111件※2月～3月に「aktaゆうそう検査 HIV・梅毒」実施時等に専門家相談を実施

内容：HIVの感染不安や検査、HIV感染が判ってからの生活についてが多く、セクシュアリティやメンタルヘルス等重複した問題について、また新型コロナウイルス感染症の影響を受け、コロナとセックスについての相談や、自治体によるHIV検査が中止となるなか、HIVや性感染症の検査がどこで受検できるのかについて、相談や問い合わせが増加した。

17

スタッフ相談対応研修会

akta相談事例を基に、4つのテーマに沿って専門家を講師として招き、研修会を実施した。
スタッフの対応の平均化や底上げを行い、チームで対応の質の向上を図った。

①「U=U」について～HIV養成者のQOL(生活の質)に影響を与えるものは何なのか？～

実施日：9月4日 講師：笹井アスカ 氏 (ViViヘルスケア)

実施内容：デリヘル勉強会と同時開催。HIV陽性者を対象としたWEB調査の報告を聞き、意見を共有した。

②ソーシャルワーク～貧困～

実施日：9月24日 講師：加藤歩 氏 (NPO法人自立サポートセンターもやい)

実施内容：貧困支援の専門家から貧困の実態、生活を支える制度、生活保護利用の実際、ハードルなど貧困に関する多岐にわたる話を聞いた。

研修終了後は、akta利用者の貧困相談対応、限界設定について話し合った。

③ハームリダクション

実施日：11月19日 講師：古藤吾郎 氏 (ソーシャルワーカー・日本薬物政策アドボカシネットワーク NYAN 事務局長)

実施内容：ハームリダクションの説明、成り立ちを聞き、この概念が重視しているポイントを聞いた。また、海外の薬物使用施設の紹介、動画を視聴した。ロールプレイも行い、aktaの相談支援でハームリダクションの考え方を取り入れる方法を話し合った。

④HIV陽性者対応

実施日：3月11日 講師：加藤力也 氏 (ぶれいす東京)

実施内容：ぶれいす東京の団体紹介～HIV陽性者のビアグルーピーティングに関する情報を聞き、情報のアップデートを行った。

緊急事態宣言下での実施ということもあり、Zoomを用いて講師からの説明を聞き、参加者からの質問に答えてもらう形式となった。

19

New!相談機会の提供

「場」をひらき、コミュニケーションすることが難しい現状の中で、HIVやセックス、セクシュアルヘルス等の話をできる機会を模索した

①リモート電話相談（緊急事態宣言で休館中に期間限定）

木・土曜 17:00-20:00 無料・匿名 相談件数：1件

※固定のaktaスタッフが自宅にて携帯電話で対応

メール相談が通常より増加。公式LINEの開設により

オンラインでの相談が微増

②ゆうそう検査キットの配布に伴う専門相談

無料・予約制 検査キットを受け取った人限定

2月22日(月),3月1日(月) 16:00-19:00

相談件数：4件（各日2名）相談員：1名

③moyamoya aktaで話そう、聞いてみよう

3月5日(金) 16:00-19:00 無料・予約制 相談員：2名

相談件数：3件（事前予約：2名、当日：1名）

対面相談とaktaからZOOM相談を実施



18

MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営

新規来場者を増やして、情報にアクセスする機会を提供する

コロナの影響でイベントや展示の開催機会は減少したが、ニーズがあった



akta主催展覧会
「U=U 2020 HIV の新常識を知ろう」
11月26日(木)-12月25日(水)
来場者数：64人

- 世界エイズデーに向けてキャンペーンと同時開催
- 期間中12月19日(土)にオンラインTalkShow開催

- ・ブライドハウス東京レガシーと同時開催
- ・TOKYO AIDS WEEKS 2020に参加

協力：NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャパンプラス、認定NPO法人ぶれいす東京、ヴィーブヘルスケア株式会社



S.オニクボ 写真展
「顕現・apparition」
11月5日(木)-11月15日(日)
来場者数：76人



「SEEX 23 春画解説本鑑賞会」
主催：セックスミュージアム設立準備委員会
9月26日(土)
来場者数：8名

・その他の展覧会は来年度に延期開催予定
・「IAAセクシャルマイノリティ・グループ」「中国語教室」等の利用があった

20

連携によるコミュニティへの情報発信



11月12日(木)
任意団体「すごたんソーシャルサービス」と意見交換会を実施、他地域での連携



NOT ALONE CAFÉ
毎月第一日曜日@二丁目 DRAGONIにて有志で開催
日本に来て間もない
ゲイ・バイ男性のための
居場所作りcafé
※2020年はオンラインを中心開催



11月27日(金)～12月25日(金)
第34回日本エイズ学会
学術集会・総会
オンライン開催
ブース出展および発表

21

アウトリーチプログラム

23

New!akta オンラインtalk show (東京都委託事業)

プログラムの目的：コミュニティへの情報共有、意見交換、普及啓発

対象なる人や施設：コミュニティの人たち、商業施設のオーナーやスタッフ、aktaボランティアスタッフ、HIVに関連した活動をしている人たち、LGBTs

実施内容：

9月27日(日) akta Talk Show 「最近、セックスどう？-コロナ禍におけるセックスについて-」

出演者：古藤吾郎（ソーシャルワーカー/NYAN（日本薬物政策アドボカシーネットワーク）事務長 司会：マダム・ボンジュール・ジャンジ、KD (akta)
ライブ視聴数：約30名 ※aktaチャンネルからLIVE配信



12月19日(金) akta Talk Show 「専門家に聞こう！U=Uキャンペーンとはなにか？これまでとこれからのHIV/エイズの

取り組み

出演者：井上洋士(順天堂大学医学部 教授/Futures Japanプロジェクト代表)
四本美保子(東京医科大学病院 医師/厚労科研「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究班」研究分担者)、木南拓也(akta) 司会：岩橋恒太(akta)
※aktaチャンネルからLIVE配信 視聴数：210回 アーカイブ 視聴数：240回(3/13)



2月19日(金) 「NGO・NPO スタッフ向けPrEP勉強会」

講師：国立国際医療研究センター エイズ治療・開発センター(ACC) / SH外来
上村悠(医師)、高野操(看護師) 司会：岩橋恒太(akta) 参加者19名
※ZOOMを使用してオンライン開催



3月 「ヒューマンアカイブ 長谷川博史さん」

ゲスト：長谷川博史 (NPO法人ジャングプラス理事)
コメントーター：生島嗣(認定NPO法人ぶれいす東京 代表)、松中権(認定NPO法人グッドエイシングエルズ 代表) 司会：マダム・ボンジュール・ジャンジ(akta)
共催：プライドハウス東京 ※aktaチャンネルから配信 視聴数：165回(公開4日後)

DELIVERY HEALTH PROJECT

目的：定期的に情報を届けてaktaの周知と普及啓発を行う



516ヶ所へ届ける、516ヶ所からの情報発信

新宿 2 丁目

ゲイバー169店舗

毎週金曜日
(第3週を除く)

MSMが集まる商業施設に

顔と顔をあわせた定期的アウトリーチ

現在、新宿・大久保・上野・浅草・池袋・新橋・渋谷等の商業施設は
郵送で対応

ゲイバー67件/性風俗店 25件/ポルノショップ 8件

全国

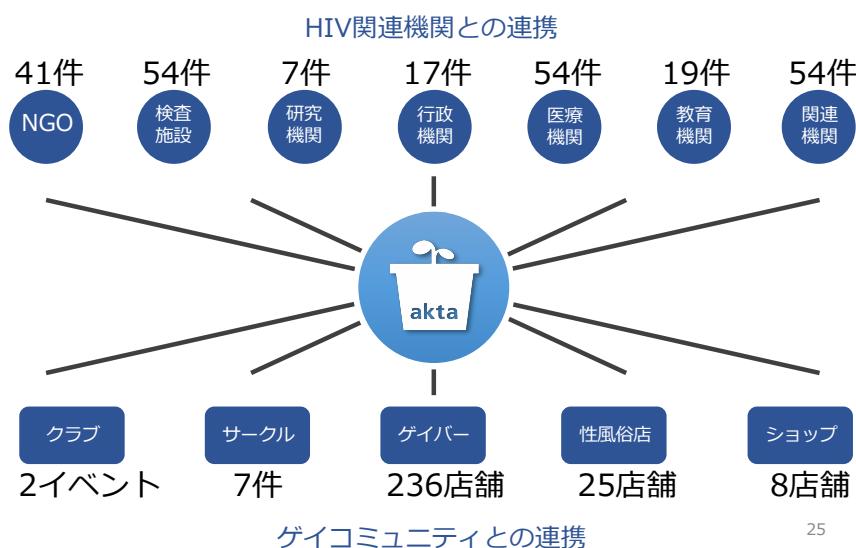
MSMを取り巻く環境
毎月月末土日

行政機関 17件/議員5名/教育機関
19件/医療機関 54件/研究機関 7
件/保健所 54件/HIV関連NGO 13
件/セクシャリティ関連NGO 15件
/制作関係者 17件/センター10件
/メディア関連 10件/企業 13件/
その他 13件

24

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

啓発普及の基点（連携のハブ）



— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

地域の商業施設数と連携

	地域の店舗数	連携店舗数	連携率(カバー率)
ゲイバー	595(296)	236(169)	39.6%(57.0%)
有料ハッテン場	45	25	55.5%
ゲイナイト	-	2	
ウリ専	130	(3)	2.3%
ゲイショップ	31	8	25.8%
サウナ・ホテル	13	4	30.7%
マッサージ	437	0	0.0%
ゲイ雑誌	-	2	
スマホアプリ	-	3	
ウェブサイト	-	4	
ゲイサークル	-	2	
その他		1	

26

— 資材制作 —

akta monthly schedule

プログラムの目的：community center aktaの周知と、DELIVERY BOYSの配布店舗へのインタビュー記事を通して、活動をはじめ、HIVや性感染症へのイメージや二丁目のコミュニティ感覚について考えるきっかけづくりとして発信するフリーペーパー。(2017年4月より配布開始、BARインタビューは2017年8月よりスタート)



27

— 資材制作 —

デリヘルくんが聞く！突撃インタビュー！！(冊子)Vol.2

プログラムの目的：『akta monthly schedule』内にて2017年8月より掲載している「デリヘルくんが聞く！突撃インタビュー！！」をまとめた冊子の第2弾として、2019年4月号～2020年12月号までの内容を、情報を追加したりマイク版を作成する事で、更なるaktaの周知と、コミュニティーとの連携を強める。またHIV検査について取り扱い、検査行動促進へつなげる。



28

DELIVERY HEALTH PROJECT



デリバリーボーイズ

プログラムの目的：セーカーセックスを身近に感じてもらうと共に、HIV/AIDSについて話す機会を提供する。また情報を届けると共に、街や店内の雰囲気や反応をキャッチしてくる。

対象となる人や施設：新宿二丁目を中心としたゲイバー・クラブの顧客と従業員。
また、参加するボランティアスタッフも対象となる。

実施内容

毎週金曜日に、おしゃいのユニフォームを着て、新宿二丁目を中心としたゲイバー・クラブにコンドームをはじめとした性の健康に関する様々なアイディアを配布(アウトリーチ)する活動です。
※新型コロナウイルス感染症の流行を受け、マスクの着用・実施前の検温・消毒(活動中も適宜消毒)を行い、感染症対策を施しました。



コンドーム配布数

(2020年4月～2021年3月末まで)

年間13,865個 1回約500～1000個配布。
稼働日数：16日 ※ポスティングを含む

今年度作成した、コンドームパッケージ



アウトリーチ 方法の摸索

緊急事態宣言期間中など、直接のアウトリーチができない際のアウトリーチ方法として、**ポスティング**や**LINE公式アカウント**の開設等を行った。

ポスティング：110/169店舗
LINE登録者数：33名

実施日時：毎週金曜日(第三金曜日を除く)の20時～22時
登録者数：125名(内毎回10～20名前後のスタッフが参加)
配布店舗数：169店舗

29

DELIVERY HEALTH PROJECT



デリバリーボーイズ・ボランティア向け研修会

プログラムの目的：活動に参加するボランティアを対象に、HIV/AIDSの基礎知識や、ワークショップ等の研修会を開催することにより、知識と意識の向上を図る。またスタッフ同士の交流や意見交換を行い、より一步ステップアップした活動を目指す。

※新型コロナウイルス感染症の流行を受け、センターや会場にボランティアスタッフを集めての実施が困難のため、Zoomを利用したオンライン上での以下プログラムに変更し実施した。

オンライン研修会

実施日：2020年9月4日

講師：笹井アスカ氏 (ViViヘルスケア)

実施内容：「HIV陽性者にとってのU=Uのインパクト、知ることの重要性」について、HIV陽性者を対象とした海外でのWEB調査の報告から学んだ。参加者からは、多くの人がU=Uの知識を持つことの重要性と、ゲイコミュニティの中で情報が広まることについて語られた。



東京都と共に開催

講師：上村悠先生、高野操先生 (国立国際医療研究センター エイズ治療・開発センター/SH外来)
実施内容：PrEPの自己輸入をはじめ、周囲でも聞かれるようになってきた中で、正しい知識や動向について学んだ。

デリヘルHR(ホームルーム)

実施内容：デリバリーボーイズの近況、性行動、コナ禍における生活の変化（仕事、学業、家庭）について話し合った。また、勉強会開催前や資料完成時はそのテーマに沿った情報共有（U=UやPrEP、コナ禍のセーカーセックス）を行い、デリバリーボーイズのニードを把握した。

活動が行えない中で、顔を合わせた場を設けることで、モチベーションの低下を防いた。また、参加したメンバーからは近況はもちろん、セックスに関する話など、普段できない話ができるだといいう感想もあり、話しやすい空間の提供へとつながった。

実施日：基本第1・第3金曜日

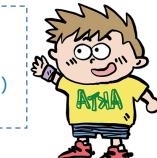
参加人数：4人～8人／1回（全18回）

30

ウェブサイトを用いた啓発

31

akta YouTube チャンネル



動画を制作して、定期的にaktaの活動紹介とHIV・セクシュアルヘルスの情報発信を、YouTube aktaオフィシャルチャンネルから発信！

2019年11月1日スタート！

2020年4月1日～2021年1月31日

視聴回数10,085回（参考：2019年11月～2020年3月の視聴回数2,475回）

登録者数：252人（前年度より164人増）

主な動画コンテンツとトピック

akta大学



大学の講義形式で、トピックについてポイント解説を行う。

3分×3分



aktaスタッフが、視聴者の疑問に3分以内に回答するコーナー。

資料紹介



aktaが作成している資料等について、紹介するコーナー。

32

— HIVマップ —

HIVの総合情報サイト www.hiv-map.net



3

検査まるわかり情報局と全国のHIV検査情報



「検査まるわかり情報局」は、「HIV検査の新常識 8つのポイント(最重要ポイント集)」、「なるほど検査Q&A(よくある質問集 16問)」、「検査用語集(37項目)」で構成

全国のコミュニティセンターや
MSM ALL JAPANプロジェクトに
参加するNPOが運営する検査情報
ウェブサイトと、全国にある特に
MSMが利用しやすい特設検査施
設情報を集約

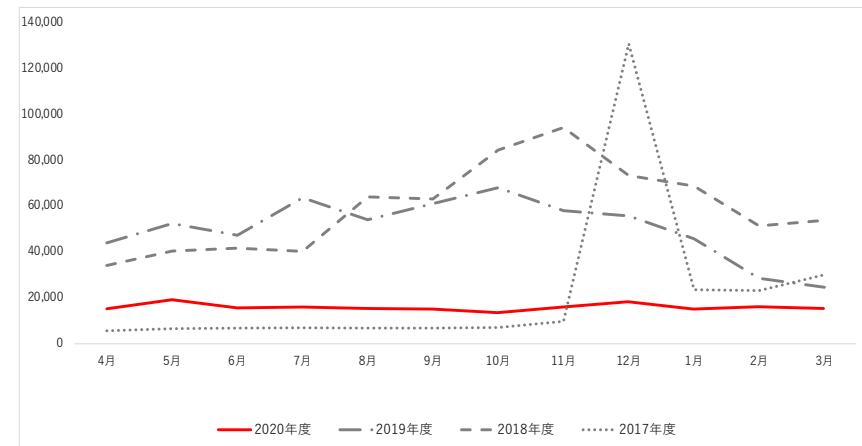
3

2020年 HIVマップ 活動の柱

- ・ COVID-19の流行および政府による緊急事態宣言の発出により、多くの保健所でのHIV検査機会や、各NPO等の相談サービスが一時休止、規模縮小。そのため厚生労働省に相談のもと、令和2年4月にHIVマップ上に注意喚起のためのポップアップメッセージを公開。
 - ・ 新コンテンツ「検査まるわかり情報局」の制作
 - ・ 内部充実、HIVマップのすべてのコンテンツの内容を最新情報に基づき大幅更新
 - ・ 全国のMSMが利用しやすいHIV検査情報等の紹介ページの作成

34

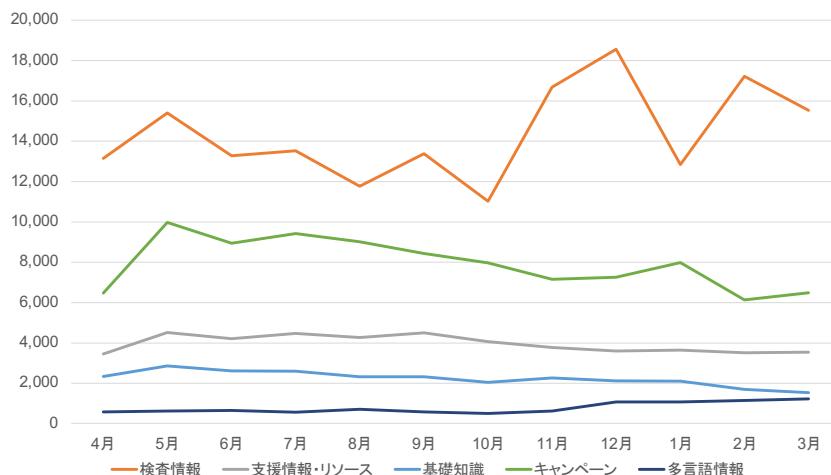
HIVマップ® ユーザー数推移 (2017~2020年度比較)



2019年度に比べ、ユーザ数が68%減少

36

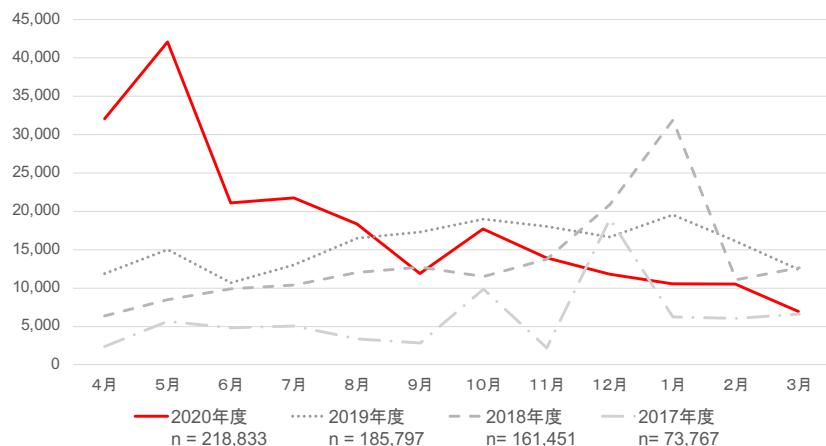
HIVマップ 2020年度 コンテンツ別 アクセス数推移



年間を通じて、HIV検査情報ページのアクセス数が最も多いしかし、2020年1月以降アクセス数が大幅に減少

37

akta.jp ユーザー数推移 (2017~2020年度比較)



2019年度に比べ、ユーザ数が118%
一方で、年度の後半で減少傾向

39

akta.jp ~ウェブ上でのaktaへの入り口



コミュニティセンターaktaとそのプログラムを紹介するサイト

- community center akta
- DELIVERY BOYS
- Living Togetherのど自慢
- デリヘルくんが聞く!突撃インタビュー!!
- HAVE A NICE SEX!
- 特定非営利活動法人akta
- [NEW!] コロナ支援情報
- [NEW!] ARCHIVE
- [NEW!] デジタルコンテンツ紹介

38

2020年度 akta.jp PV数 ベスト10

順位	コンテンツ名	ページビュー数	ページ別訪問数
1	特集記事 新型コロナウイルス感染症 vol.1 「ロックダウン中はヤリモクで人に会うのをひかえよう」	100,833	96,590
2	have a nice sex	58,006	52,213
3	Covid-19の支援情報	22,566	19,291
4	akta.jpトップページ	19,406	14,296
5	デリヘルくんが聞く 突撃インタビュー!!	13,498	10,829
6	新型コロナとセックス・HIV予防のアンケート	11,721	10,581
7	U=U 2020キャンペーンサイト	11,339	10,210
8	もっと自分のカラダのことを知ってみよう	8,466	8,104
9	コミュニティセンターakta紹介ページ	2,997	2,398
10	MSM ALL JAPANキャンペーンページ	2,897	2,570

40

HIV検査普及プログラムと行政連携

41

検査環境の整備と検査行動の促進 保健師(HIV検査担当者)研修会

東京都
東京都福祉保健局
健康安全室感染症対策課
エイズ対策係

神奈川県
神奈川県保健福祉局
健康医療部健康危機管理課
感染対策グループ

千葉県
千葉県保健福祉部
疾病対策課
感染対策室

埼玉県
埼玉県保健医療部
保健医療政策課 感染症・
新型インフルエンザ対策担当

毎年実施されてきた保健師研修会が、COVID-19の影響により、**すべての地域で中止**。そのため、特に今年度はエイズ予防財団や保健医療科学院等での研修機会に積極的に講師として協力。

プログラム

コーディネート：生島嗣／ぶれいす東京

- ① 開催都県のHIV/エイズ対策の共有
- ② アイスペイブ
- ③ 陽性者の手記リーディング(HIVのリアリティの共有)
- ④ セクシャリティへの理解と求められる配慮
- ⑤ MSM検査の最新情報～HIV対策における検査の重要性～
- ⑥ 検査環境の取り組み事例の紹介と意見交換
- ⑦ セクシャリティに配慮した 模擬対応
- ⑧ 相談・支援に役立つリソース紹介/akta見学

アンケート

研修を通して…性的な話題への抵抗感を感じる人が少なくなった／身近にMSMがいる意識が高まる傾向が見られた／HIV陽性者の相談も他の相談者同様に対応する自信をつけた人が増えた／情報がアップデートされた

MSMへの理解を深め、MSMが安心して検査を受けられる環境整備

検査環境の整備と検査行動の促進

戦略研究終了後、2011年4月からの取り組み

MSM首都圏グループ（NPO法人ぶれいす東京+NPO法人akta）+
厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」



効果評価

厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」との連携による調査・効果評価の実施。

- ・MSMにおける啓発活動の広がりを把握するコミュニティでの質問紙調査

MSMを対象としたHIV検査普及・広報

- ・HIV検査普及のための資料の企画・制作
- ・首都圏地域のゲイ向け商業施設へのアウトリーチ

検査環境・相談支援の整備

- ・エイズ対策事業に関する意見交換会の開催
- ・HIV検査従事者に向けた研修会の実施（都県とMSM首都圏グループで実施）
- ・通常検査・臨時検査検査情報収集
- ・支援・相談情報提供 ウェブサイト：HIVマップ

HIVマップ



42

連携による検査普及の課題

コロナの影響による保健所検査の停止

- ・ 東京都内の保健所は、一時、南新宿検査・相談室等の特設検査相談施設を除いて大半の保健所がHIV検査実施を中止・延期をした。
- ・ 常にコミュニティや個々の声を聞くことの重要性。
- ・ aktaの活動が検査に偏らないように、一次予防などの活動のバランス。
- ・ 増加している外国人への検査機会と支援・情報提供の検討。
- ・ トランスジェンダーなど、性の多様性への配慮。

43

44

検査環境の整備と検査行動の促進

行政機関と連携した検査広報

東京都

東京都福祉保健局健康安全部

各保健所の個別情報→ウェブサイト紹介
都の検査施設のみ紹介、4000部作成・配布



みなど保健所

新橋あんしん検査

・昨年を上回る受検者数となった



2020年度中止！

- ・埼玉県保健医療疾病対策課（HIV・梅毒日曜検査等の広報を年6回）
- ・草加保健所（MSM限定検査会）広報および相談員の派遣
- ・新宿区保健所 ゲイのためのエイズ・性感染症検査（年2回）

45

— 行政連携 —

行政機関と連携した検査広報：千葉県

プログラムの目的：ゲイ・バイセクシュアル男性があんしんして検査を受けられる環境を整備して、セクシュアリティに配慮した検査普及を行い、HIV感染の早期発見をし、エイズ発症により感染を知るケースを減少させる。

連携内容：ゲイに人気のアプリやネット媒体(9monsters、MENS NET JAPAN)にて、バナー広報を展開。セクシュアリティや地域性を考慮したイラスト、デザインでのバナー広報を展開した。

※今年度は新型コロナウイルス感染症の流行を受け、自治体による検査会が中止となり、実施のあった検査会の広報のみを行った。

実施日程と施設：

1.令和2年1月22日(日)浦和市民プラザWAVE101

帯バナー



※4月、6月、8月、1月は検査会中止となりました。

バナー広報：3週間掲載を行った



制作物：受検者に対して、不安をやわらげる電話相談や感染予防の情報サイトの紹介など、HIV/エイズに対する理解を深められるような啓発資料を作成・配布する。

- ・受検者が持ち帰れるA7サイズの情報カード
- ・コンドーム

情報カード



46

WE'RE
ALREADY
LIVING
TOGETHER.

HIVを持っている人も、
そうじゃない人も、
まだ分からぬ人も。
わたしたちはすでに、
いっしょに生きている。
WE'RE ALREADY
LIVING TOGETHER.

Living Together
- HIVのリアリティを伝えるプログラム

47

48

Living Together 2021

プログラムの目的 :

- ・HIVを自分の事として、**身近に捉える機会を提供する**
- ・陽性者の声を可視化して、**スティグマを低減する**。そして誰もが生きやすい環境をつくる
- ・自分の行動を振り返り、**予防行動・検査行動へつながる**

方法 :

- ①陽性者や周囲の人が書いた**手記集のアーカイブ化**
- ②手記リーディングのオンライン配信
 - ・HIV陽性者や周囲の人が書いた手記のリーディング、HIVの最新情報の提供、LIVEやパフォーマンス等で構成
 - ・それぞれ異なる背景をもつ多様なゲストが出演する

協力「Living Together計画」：多様性を伴った視点からすべての人がHIVとともに生きているというリアリティを共有するためのプロジェクト（ぶれいす東京とaktaが呼びかけ団体）

効果 :

あらゆる地域から視聴可能なことで、より多くの人に届けることができる

49

New!オンライン配信LIVEショー

3月12日（金）19時～3月15日（月）9時まで
aktaチャンネルでプレミア公開！ 視聴数：825回 ※ゲイメディアが協力
方法：司会2名、朗読ゲスト2名、LIVEゲスト1名 時間：約45分
収録したものを後日aktaのYouTubeチャンネルで期間限定で配信
内容：ゲストがHIV陽性者やその周囲の人の手記を朗読し、感想を話す
LIVEパフォーマンスによるショータイム



51

New!オンラインリーディング

方法：司会1名、ゲスト1名 時間：約15分 合計視聴回数：919回（3月末）
収録したものを編集し、後日aktaのYouTubeチャンネルで配信
内容：ゲストがHIV陽性者やその周囲の人の手記を朗読し、感想を話す



WE'RE ALREADY LIVING TOGETHER.

第1回ゲスト：うしさん（LGBT英会話）



WE'RE ALREADY LIVING TOGETHER.

第2回ゲスト：佐藤郁夫さん（ぶれいす東京）



WE'RE ALREADY LIVING TOGETHER.

第3回ゲスト：じんべえさん（東京都福祉保健局）



WE'RE ALREADY LIVING TOGETHER.

第4回ゲスト：シゲ先生

50

調査・研究

52

●学会報告

- ・岩橋恒太「HIVコミュニティからの「新型コロナウイルス感染症に対する要望書」アクションの紹介」, 第34回 日本エイズ学会学術集会(オンライン)
- ・岩橋恒太「教育講演 MSMにおけるHIV予防啓発活動」, 第34回 日本エイズ学会学術集会(オンライン)
- ・Kota Iwahashi "A brief overview of the current situation of U=U in Japan", apcom community summit 2020, Bangkok
- ・荒木順、金子典代、木南拓也、柴田恵、岩橋恒太、藤原孝大、鈴木敦大、高久道子、高久陽介、市川誠一、張由紀夫、生島嗣「ゲイバー等の連携による「Living Togetherのど自慢」の実践とその効果について」第34回 日本エイズ学会学術集会（オンライン）

●論文・レポート報告

- Kaneko, Noriyo, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, and Seiichi Ichikawa. 2020. "Correlates of Lifetime and Past One-Year HIV-Testing Experience among Men Who Have Sex with Men in Japan." AIDS Care, November, 1–8.
- 岩橋恒太. 2020. "HIV 検査受検者との支援的コミュニケーションにおける, NGO スタッフの役割と実践の検討." 日本エイズ学会誌= The Journal of AIDS Research 22 (3): 129–35.
- 岡慎一, 岩橋恒太, 高久陽介, 松下修三. 2020. "座談会 COVID-19 パンデミックから学ぶ HIV 診療・治療のあるべき姿." HIV 感染症と AIDS の治療 11 (1): 53–63.
- 荒木順, 岩橋恒太. 2020. "民間における LGBT に向けた取り組み 新宿二丁目を基点に活動する Akta の取り組み (特集 LGBT とは: 多様な性と向き合うために理解しておきたいこと)." 保健師ジャーナル 76 (7): 539–41.

53

2020年度の主な研究分担・協力

- ・厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」研究代表者 塩野徳史
- ・厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「MSMにおける予防啓発活動の評価手法の確率及びPDCAサイクル構築のための研究」研究代表者 塩野徳史
- ・厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」研究代表者 今村顕史
- ・厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV受検勧奨のための性産業従事者や事業者等に対する効果的な介入に向けた研究」研究代表者 今村顕史
- ・厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「外国人に対するHIV検査と医療サービスのアクセス向上に関する研究」研究代表者 北島勉

54

COVID-19のインパクトのなかでのMSMへの検査普及の取り組み

COVID-19 流行時のMSM向け検査戦略

- ・保健所検査は依然として重要だが、コロナ対応で検査自体を止まってしまった
- ・利便性で課題、対面忌避するMSMに届きにくい
↓
- ・従来の保健所検査以外にも検査機会の確保が重要
- ・民間医療（クリニック）や郵送検査の活用が有効

効果的な展開のために

- ・NPOが、MSM向けスマホアプリ広告を使い、企画、発信、広域に展開
- ・初めから行政を巻き込む
- ・地域の医療のキーパーソンと連携して、クリニック連携を広げる

55

akta ゆうそう検査 2020



厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入に関する研究」の研究として検査を実施

新たな取り組み

- ・梅毒TP抗体検査を実施
- ・COVID-19の流行を受け、受け取りをウェブシステムを用いた予約制、説明をなるだけコンパクト化
- ・検査会社に検査を委託し、結果告知や情報提供について意見交換
- ・確認検査受入機関として、行政の他、東京都内15の医療機関と連携

キットはスタッフから手渡しで配布。

受検者は自己採血キットにより指先より採取した血液をろ紙にしみこませ、検体を郵送で検査会社に送付。

スクリーニング検査結果を専用webサイトで確認する。

2021年2～3月にトライアル実施。

56

COVID-19のインパクトの中での MSMへの検査普及の取り組み

・2020年度MSM ALL JAPANチームに
参加する、

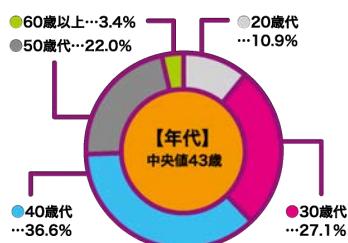
北海道(にじいろほっかいどう)、
東北(コミュニティセンターZEL)、
東京(コミュニティセンターakta)、
神奈川(SHIP)、
愛知(コミュニティセンターrise)、
大阪(コミュニティセンターdist)、
瀬戸内(HaaTえひめ)、
福岡(コミュニティセンターHACO)、
沖縄(コミュニティセンターmabui)

の全国9地域で、MSM向けHIV・梅毒
郵送検査キットプロジェクト「ゆうそ
う検査」を開始。



回答者の概要

数値は% (n=1327)



【U=Uの認知】

● 知っている ... 65.3%
● 知らない ... 34.7%

【PrEPの経験】

● ある ... 12.7%
● ない ... 87.3%

首都圏MSM対象 新型コロナとHIV予防について のアンケート：横断調査 概要

- 調査目的
 - COVID19流行のもとでの、首都圏のMSMにおける性行動、HIV検査受検行動等の予防行動、および新型コロナに関する意識
 - 特に第1回目の緊急事態宣言(2020年4～5月)以前、以後の変化
- 調査実施期間
 - 2020年10月16日から26日の11日間
- リクルート方法
 - **首都圏居住のMSM限定**
 - MSM向けGPS機能付き出会い系アプリバナーを掲載
 - 有効回答 1,713件
 - 本報告での分析対象 1,373件(20歳以上、MSMかつHIV陽性でない)

厚生労働省「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者 今村顕史),
「MSMのためのHIV検査相談環境の改善と受検支援に関する研究」(分担研究者 本間隆之)にて実施



58

3. 緊急事態宣言前後の 半年間を比べての回数や量

● セックスの相手 (n=1086)



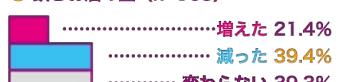
● ゲイ向け商業施設の利用 (n=518)



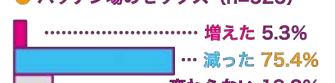
● 出会い系アプリ出会いの相手 (n=895)



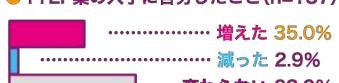
● 飲むお酒の量 (n=963)



● ハッテン場のセックス (n=525)



● PrEP薬の入手に苦労したこと(n=137)



59

60

6.これまでの生涯における受検経験



最後に検査を受けた時期

- 過去6ヶ月以内 30.0%
- 6ヶ月以上1年以内 18.9%
- 1年以上2年以内 21.1%
- 2年以前 30.1%

最後に受検した場所

- 保健所・保健センター 30.3%
- 病院・診療所・クリニック 30.3%
- 東京都南新宿検査・相談室 17.4%
- イベントHIV検査会 5.3%
- 郵送検査 5.1%
- HIVcheck.jp 3.1%
- 手術前・入院時の検査 2.7%
- 自己検査キット 2.1%
- 多摩地域検査・相談室 1.5%
- その他 2.2%

(n=1068人)

61

7.緊急事態宣言後の半年間における【検査の受検意図】と【検査控えの経験】

【検査の受検意図】
HIV検査を受けたいと思ったこと.....(n=1327)



【検査控えの経験】
新型コロナの感染予防のために、HIV検査を受けるのを控えたこと.....(n=614)



- 再開してからもともと検査予定だった施設で検査した
- 電話で問い合わせて、検査してもらった
- 時期をずらして受診した
- SH外来
- 検査をしなかった
- 延期した

8.緊急事態宣言後の半年間において、HIV検査が休止を受けられなかった経験



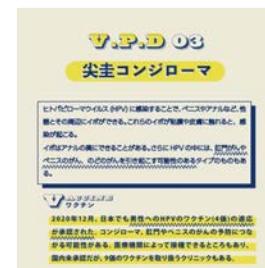
HIV検査を受検できなかつた割合は21%だった

保健所や病院のHIV検査が利用できなかつた時、他のHIV検査を利用しましたか？(n=136)
(あではまるのすべての回答)

- 4月以降は検査を受けていない 61.0%
- 他の地域の保健所・保健センターを利用 5.1%
- 他の病院・診療所・クリニックを利用 8.1%
- 東京都南新宿検査・相談室を利用 8.8%
- 東京都多摩地域検査・相談室を利用 0.0%
- 献血を利用 1.5%
- 郵送検査を利用 1.5%
- 自己検査キットを利用 1.5%
- イベントHIV検査会を利用 4.4%
- その他 8.1%

62

V.P.D for MEN ワクチンで防ぐことができる性感染症



MSMに向けてV.P.D(ワクチンで防ぐことができる性感染症)のコンセプトを伝える目的で、病態の基本情報、ワクチンの接種方法、費用のおおよその値段を説明。

A型肝炎、B型肝炎、尖圭コンジローマを中心紹介。

2019年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」にて作成

63

MSMを対象とした梅毒の注意喚起



MSMの間での梅毒の流行および梅毒検査の普及啓発に際して、改めて梅毒の注意喚起を行なうキャンペーンを実施。
2015年に展開したキャンペーンを、情報をアップデートしてリバイバル。
厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」にて制作。



64

U=Uキャンペーン 2020

2020年

- ・1月 Prevention Access CampaignのBruce Richmanさんらが来日、医療者や行政、NPOなど市民社会と勉強会や意見交換会が行われた。
- ・3月『抗HIV治療ガイドライン』のなかで、「HIV診療にあたる医療者はU=Uについて患者に伝える必要があること」が言明される。



- U=Uのキャンペーンのメッセージと6つのポイントを、akta、日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス、ぶれいす東京とともに制作
- 日本のコミュニティにおけるU=Uの課題にも触れる
- 「セックスとライフスタイルに関するこど」ということを伝えるためのビジュアル
- 日本に住む外国人にも情報が伝わるように、多言語での情報提供

65



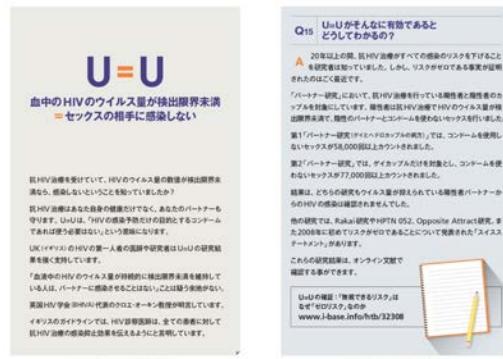
2020年11月～12月を中心にキャンペーン展開

- ・ U=Uに関するポスター、パンフレットの制作
- ・ 同内容のウェブサイトを制作、6言語での展開
- ・ HIV専門医、研究者とともにオンライン勉強会を実施



66

U=U Q&A factsheetの作成



U=Uキャンペーンのアウトリーチ・展開中に、様々な質問・疑問が寄せられた
U=Uに関するコンパクトで平易にまとめたQ&A集が必要とされた

英国のi-Baselによって2018年に制作されたファクトシートについて、コンタクトを取り、日本語翻訳と
日本向けにリデザインを行った

67

新型コロナウイルス感染症と 新宿二丁目の対応

68

新宿二丁目でのCOVID19対策①

2020年3月末

- 東京都が週末外出自粛要請を発出
- 新宿二丁目で働く人たちの希望者を集めた緊急会議を実施
- 情報交換用のLINEグループ**を立ち上げ
コーディネーターを新宿二丁目振興会会長担当



4月～6月

- 政府が緊急事態宣言を発出(4月7日)
→営業自粛・休業をする飲食店の事業者に対する補填を求める署名活動
- 営業再開に向けて、**二丁目のお店の形態・実態にあう予防対策ガイドライン**が共有され、各店で対策が進められる
→LINEグループにて予防対策の実践例等の情報共有や相談
→家賃補助に関する勉強会・相談会を実施

7月

- お店とNGOが連携する、新宿二丁目COVID19対策ネットワークを組織(事務局 akta)
- 感染者発生時のお店の対応のための勉強会を実施
- 新宿二丁目で働く人を対象とした**COVID19に関するアンケート実施**



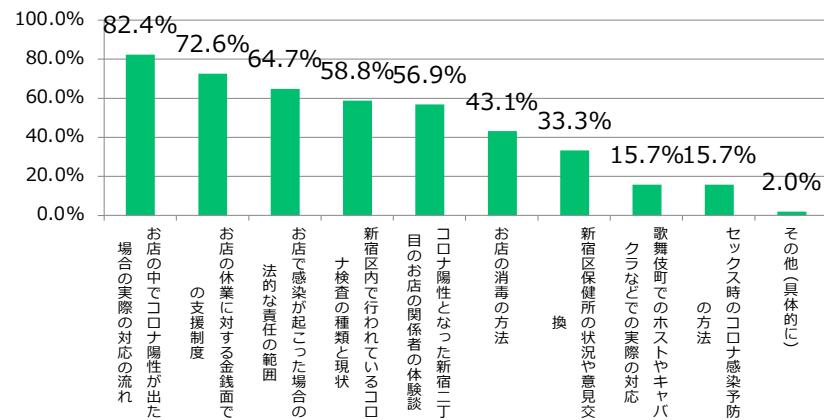
感染者発生時の対応のための
バー関係者向け勉強会 69

新宿二丁目COVID19アンケート(2020年7月23日～29日実施)

COVID19の情報について、

今後どんなことを知りたいですか？※複数選択

n=51



お店関連で陽性が出た場合の具体的な対応やお店の責任の範囲、また営業を続けるための支援制度に対して関心が高かった。

71

エイズ対策に携わってきた市民団体、HIV陽性者、研究者有志グループによる「新型コロナウイルス感染症に対する要望書」

日本全国の市民団体、HIV陽性者、研究者、32の組織・個人が、HIV対策で学んできたことを活かし、市民の視点に立ったCOVID19対策を実現することを求める要望書を、2020年5月15日、厚生労働省に提出
事務局 ぶれいす東京・akta

要望事項

- HIV/エイズの予防対策や治療への影響の現状把握と改善に向けた取り組みを行うこと、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する場合への対策を準備すること
- 新型コロナウイルスに感染した人及びその周囲の人々の**人権を守り、差別・偏見をなくすべく手段をつくすこと**
- クラスター対策等での個人情報の収集については、市民との合意形成を重視し、常態化を避けること
- 社会において脆弱性をもつ人々の背景に配慮し、**当事者参加型**による啓発・支援の対策を構築すること

詳細は下記に掲載

<https://ptkyo.org/news/12643>

70

新宿二丁目 COVID19陽性事例の聞き取り調査 (2020年9月実施)

※ お店が特定されないように、一部、複数の事例を混せて構成。
新宿二丁目にあるゲイバーでの事例

- 7月にお店のスタッフが発熱
→新宿区保健所へ相談。PCR検査を受け、COVID19陽性が判明
→オーナーがお店を休業することを決め、保健所の指導の元で対応
- 感染可能性のあるスタッフや客、特に濃厚接触者に当たる人たちのリストを作成
→お店のスタッフがお客全員の連絡先を把握できていた。そのため、スタッフの陽性が判明した翌日には、全員に連絡を完了。
→濃厚接触者に対し、発熱など症状が出た場合に保健所に連絡してくださいと指示をもらう。

お店の規模が大きく全てのお客の連絡先を把握していなかったり、個人情報をオープンにしたくないお客がいる場合もある。
発生が起こったお店の対応・指導にあたった保健師等への感謝の言葉は多く聞かれた。

新宿二丁目 COVID19陽性事例の聞き取り調査 (2020年9月実施)

* お店が特定されないように、一部、複数の事例を混せて構成。

- ・感染可能性がある人が保健所への連絡を躊躇したり、PCR検査受検につながることができないことが起った。

→保健所等に感染可能性があることを説明する際に、自らがゲイバーについていたことを細かく話さなければならず、**自分のセクシュアリティを隠しておきたい人間関係**にも知られてしまうのではないかと危惧し、連絡にくく感じた。

→地元の保健所に連絡した際、新宿二丁目のバーのあり方や状況に理解してもらえず、PCR検査受検につなげてもらえたなかった。そのため、自己負担でPCR検査を受検し、COVID19陽性が判明した。

感染リスクがあり受検が必要な人が安心して
検査を受けられる体制の整備が求められる。

通常時（感染がある程度収まっている段階）から当事者の意見をヒアリングし、業種や地域の特性や受検者のもつ多様な背景を踏まえた、支援を含む体制・準備が必要。
73

新宿二丁目でのCOVID19対策②

9月

- ・「コロナとセーフアーセックスのために今できること」のパンフレット作成・配布
- ・新型コロナウイルス感染症対策分科会「大都市の歓楽街における感染拡大防止対策ワーキンググループ」にて、コミュニティセンターaktaでのHIV対策の取り組みおよび新宿二丁目でのCOVID19対策の発表

10月

- ・新型コロナウイルス感染症対策分科会「偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループ」に意見書の提出

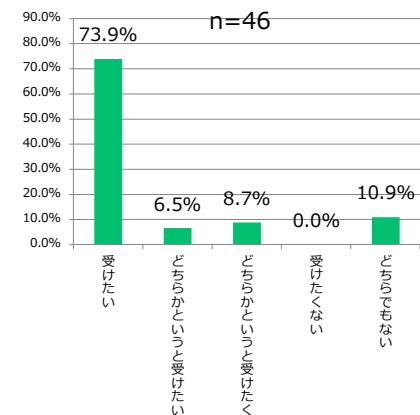
11月

- ・新宿二丁目で、新宿区保健所との共催で新型コロナウイルス感染症に関する勉強会・意見交換会を実施
- ・新型コロナとHIV予防についてのアンケートを実施

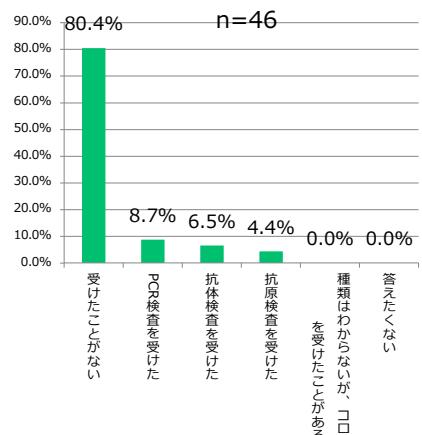


新宿二丁目COVID19アンケート(2020年7月23日～29日実施)

COVID19のPCR検査を受けたい
と思いますか？



あなたはこれまでにCOVID19の
検査を受けたことがありますか？



PCR検査の高い受検希望に対し、受検経験は9%程度。
受検希望者のうち、**COVID19の感染リスクにある者の受検を難しくしている可能性はないか、またその阻害要因が何であるのかを明らかにする必要がある。**

74

まとめ

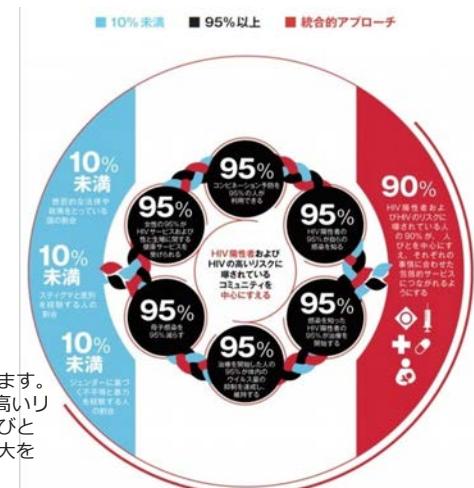
76

2025年 エイズターゲット
— HIV陽性者とリスクに直面
している人たちのコミュニティを中心に

Ending AIDSの戦略が、
「単線」のイメージから
「円環」のイメージへ変更

これらのターゲットは人びとを重視しています。
HIVやCOVID-19といったパンデミックの高いリスクにさらされ、社会から疎外されがちなびとを中心に入ることで、パンデミックの拡大を促す不平等の解消をはかるものなのです。

ウィニー・ビヤニマ UNAIDS 事務局長

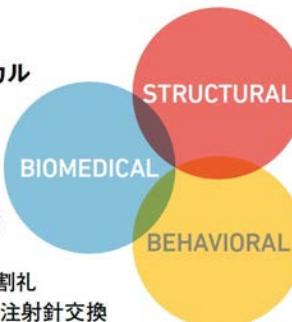


77

コンビネーション予防： HIV予防のツールボックス

バイオメディカル

- ・コンドーム&ローション
- ・HIV検査
- ・全員の治療
- ・母子感染予防
- ・PrEPとPEP
- ・自発的な男性割礼
- ・薬物使用者の注射針交換



Pan American Health Organizationより引用

構造的

- ・HIV媒介と個別施策
- ・層の脱犯罪化
- ・ジェンダーに関連する暴力対策
- ・人権を守る法環境
- ・ステigmaと差別を減らす介入

行動学的

- ・感染リスクを低減するためのケア
- ・包括的なセックス教育
- ・ピア教育プログラム
- ・ソーシャルマーケティングキャンペーン



- ・市民がアクセスできる予防の方法を**複数の選択肢**として準備すること
- ・予防対策が、バイオメディカルの面だけでなく、構造的、行動学的な面にも同時にフォーカスする**包括的**であること
- ・**コミュニティエンパワメント**の要素をもつこと

78

日本のエイズ対策の **Bounce Back Better!**

Combination Preventionの時代のNGOの活動でいえば…

- ・Community Health Workerとしての役割・機能を再定義
- ・PrEP啓発など、さらなるトレーニングや連携、評価が必要
- ・エイズ対策における、さらなるマルチステークホルダー・プロセスを進めるよう働きかける

BOUNCE BACK

79

課題

- ・COVID-19の流行を受け、CBOの活動基盤や検査体制が脆弱になり、90-90-90の根幹を揺るがしかねない状況。
- ・若年層での感染報告数の増加が継続、中高年層のエイズ発症ケースも減少していない。また滞日外国人MSMの感染報告も増加している。
- ・治療が進歩している現在、引き続きU=UのコンセプトやHIV/AIDSのリアリティの共有を図るとともに、偏見・差別の低減をめざし、予防行動の促進と自発的な早期受検によるエイズ発症を抑えることが求められている。検査においては定期受検の啓発が必要である。

80

aktaの課題

- 活動の継続性について

→スタッフやボランティアの拡充と継続的に関わられる体制作り、資金の確保、NPOの体制見直し

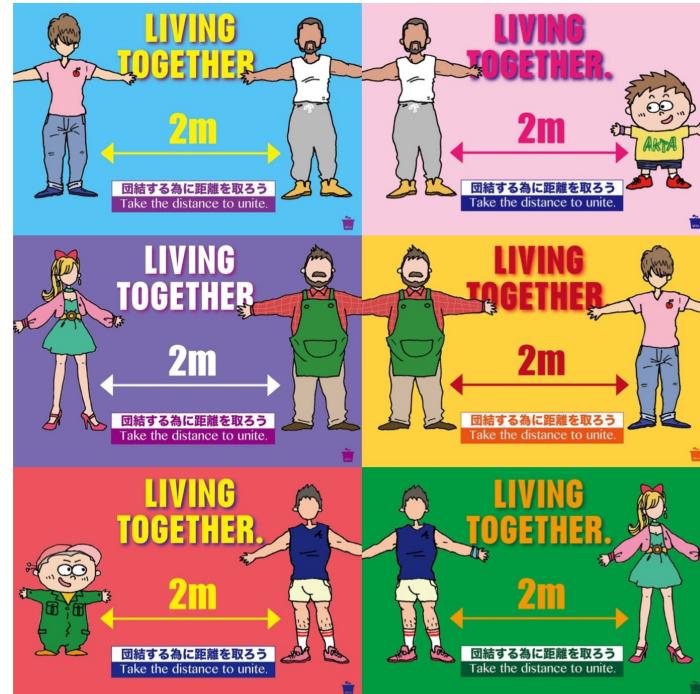
- コンビネーション予防を踏まえて、どこに注力するのか

- PrEP,U=Uなどの情報をコミュニティにどう伝えていくのか
→新しい情報を正しくわかりやすく発信する
→情報の収集と整理、医療機関との連携とバランス

- 重複した課題を持つ相談者や居場所としてセンターを利用している人たちへの次のステップをどのように設定するのか

- MSMの中のマイノリティへの対策（滞日外国人、トランスジェンダー、依存をもつ人、ろう者他）

81



82